



川中便り

平成29年4月28日(金)発行

新発田市立川東中学校

学校便り 第1号

「飛躍」に書かれていた思い

— 第1学期始業式講話から —

校長 三村 孝志

校長室に古い冊子があります。「飛躍」という冊子です。川東中学校文芸部の編集発行で、昭和32年3月15日と奥付にあります。60年前の発行ということになります。

この中に「今の世の中と百姓」という1年生の文章が掲載されています。今は百姓とは言わないですね。こんなことが書かれています。

「今はおおいに勉強しなければ、ならない時です。それなのに、よそで聞いた話では、勉強したって何にもならない一生懸命仕事をすればよいのだ。というのです。」

何を言おうしているのでしょうか。もう少し引用してみましょう。

「仕事ばかりが百姓の、ものではない。やっぱり勉強は、必要だと思います。そのことから、父母達は、私達に仕事を手伝ってくれと言う時には、仕事がすんだら一生懸命勉強せと私達に希望を与えるように言ってほしいと思うのです。勉強なんて何にもならない、などと言わないようにしてもらいたいと心からお願いいたします。」

生徒のみなさんは、先輩の言葉を聞いてどう感じましたか。

昭和32年に1年生ということは昭和19年か20年の生まれでしょう。

総務省統計局のデータによると、昭和32年の高等学校進学率は51.4%、男54.3%、女48.4%でした。昭和29年に50%を超えたようです。ちなみに大学進学率は男9.0%、女性は2.5%です。先ほどの生徒の「勉強なんて何にもならない、などと言わないようにしてもらいたいと心からお願いいたします。」という言葉には、勉強したいという切なる願いが込められていると思います。家の仕事(農業)をしっかりやればよいのだという考え方に、中学1年生として異議を申し立てているのです。

勉強がしたいと思ってもできなかった人が過去にはいっぱいいるのです。みなさんは、勉強しようと思ったら、いくらでもできます。勉強したくてもできなかった人たちがいることを考えれば、勉強できる環境にいるみなさんは、その環境を生かして、精一杯勉強してほしいと心から思います。学校の勉強はその中心だけでも、いろいろなことから学び続けてほしいとも思うのです。

勉強をしないということは、自分の可能性を狭めることになります。わからなかったことが「わかった」、できなかったことが「できた」、つまらなかったことが「おもしろくなった」という体験をたくさんしてほしいと願っています。



昭和31年度の川東中学校

1学年 4クラス 43名が3クラス
2学年 3クラス 49名が2クラス 50名が1クラス
3学年 4クラス 51名が2クラス 52名が2クラス
男子 266名 女子 259名 計 525名

昭和30年度の進学状況

全日制に進学した生徒が19.7%、定時制を含めた進学率は43.2%でした。高校に進学しない生徒がたくさんいたのです。